

文部科学省補助事業

令和3年度版
研究機関用

卓越研究員事業

Leading Initiative for Excellent Young Researchers

未来を変える博士人材がいる。
チャレンジできる環境がある。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

卓越研究員事業の概要図

卓越研究員事業は、若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できる環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関での活躍を支援する事業です。

卓越研究員事業では、優秀な博士人材の採用を希望する研究機関からポストを提示していただき、並行して若手研究者からの申請を受け付けます。次にポスト提示機関と若手研究者は個別に交渉（当事者間交渉）を行います。申請のあった若手研究者の中から、文部科学省が優秀な人材を「卓越研究員候補者」として選考し、当事者間交渉が完了した順番に「卓越研究員」として決定します。機関が提示されたポストに「卓越研究員」が採用された場合に、支援を行う事業です。



※1 若手研究者：博士の学位を取得又は博士課程を満期退学した者で、2022年4月1日現在40歳未満の者（ただし、臨床研修を課された医学系分野に在籍した者においては43歳未満）、かつ直近5年間に研究実績のある者、これまで文部科学省から卓越研究員として決定されたことがない者

※2 対象研究機関：国公立大学、大学共同利用機関、高等専門学校、国立研究開発法人、公設試験研究機関、研究開発活動を行っている日本国内に法人格を有する企業等

事業スケジュール

- 4月30日～12月13日 研究機関 ポスト提示期間
- 5月下旬(予定)～ ポスト公開開始 その後も追加、変更について随時公開します。
- 5月10日～6月10日 研究者 申請期間
当事者間交渉
※卓越研究員候補者決定の前に各研究機関及び申請予定の研究者は連絡を取ることが可能です。
- 9月 研究者 審査
- 10月 卓越研究員候補者の決定（申請者への採否通知）
卓越研究員決定
- 10月以降 研究費・研究環境整備費又は産学連携活動費の支援開始

卓越研究員事業とは

ポイント

1

若手研究者の採用活動に役立ちます！

■ 若手研究者(40歳未満の博士)を対象とした事業です。

- ・本事業への申請者には、海外の研究機関に所属する優秀な研究者が含まれています。
- ・ポスト提示機関には、申請者※及び候補者リストが提供され、機関側から若手研究者にアプローチすることも可能です。※申請段階で同意があった者のみ
- ・卓越研究員候補者は、幅広い研究分野から厳正な書面審査によって選考されます。

■ JREC-IN Portal※ の一般公募を活用したポスト提示ができます。

- ・企業がJREC-IN Portalに提示しているポストに卓越研究員候補者を採用した際、当該ポストが卓越研究員事業のポスト要件を満たすと文部科学省が判断した場合、当該ポストを卓越研究員事業により提示されたポストと同等のものとして取り扱います。

※ JREC-IN Portal <https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>

■ 様々な選考スケジュールに応じたポスト提示が可能です。

- ・令和3年12月中旬までポスト提示期間を設けています。

■ 企業においては、インターンシップを経由した上で採用することも可能です。

- ・インターンシップの実施により、採用前に研究環境等の相互理解を図ることも可能です。

■ ブリッジプロモーター（当事者間交渉支援機関）によるマッチング支援が受けられます。

- ・ヒアリングの実施、若手研究者の推薦、若手研究者との意見交換機会の提供等



科学技術人材育成費補助金による支援があります！

提示したポストに、卓越研究員候補者に選考された博士人材を採用した場合、「卓越研究員」に決定し、研究機関に対して必要に応じて補助金による支援を行います。

(※ 支援予算には限りがあります)

支援内容 ※A、Bいずれかの支援を選択することが可能です。(Bは企業のみ選択可能です)

[A] 研究費及び研究環境整備費**a. 研究費 (2年間)**

卓越研究員の決定後1～2年度目(翌年度に雇用開始となり、補助金による支援対象となった場合は2～3年度目)に限り、卓越研究員一人当たり2年間で1,200万円を上限として支援。

(2年間の配分は自由としますが、年間800万円を上限とします。なお、人文学及び社会科学については、2年間で800万円を上限として支援し、年間500万円を上限とします。)

b. 研究環境整備費 (5年間)

卓越研究員の決定後1～5年度目に、年間200万円に在籍する卓越研究員の数を乗じた額を上限として支援。

[B] 産学連携活動費 ※企業のみ選択可能**産学連携活動費 (5年間)**

企業においては、大学等との共同研究に特化した産学連携活動費での支援も可能です。

卓越研究員の決定後1～5年度目に、その共同研究等に係る契約に基づき、企業が負担する産学連携活動費の1/2を上限に各年度1,000万円まで支援。



卓越研究員の声

Voice

これまでに262人が卓越研究員として決定されています。
(2016～2019年度実績) 全国の産学官の研究機関をフィールド
として活躍している卓越研究員をご紹介します。

既存の枠にとらわれず、異分野にも視野を広げながら、 研究の舵取りをできるように心がけています

株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所
リサーチラボ
アソシエートリサーチャー
小泉 愛 さん (平成30年度卓越研究員)



【卓越研究員事業に申請した理由】

2つのラボでのポストドク経験を経た後、最初のうちは試行錯誤を覚悟しつつも、自分自身で舵取りをしながら思い描く研究をしたいと思うようになったためです。

【今の所属機関を選んだ理由】

様々な分野の研究者が各々に自身の信念や興味を貫き、社会貢献を念頭にオリジナルの研究テーマを掘り下げている自由な環境に惹かれたためです。

【研究環境等の変化】

今の所属機関で卓越研究員になったことで、研究の自由度が今まで以上に高くなりました。そのため、どのようなアウトプットやインパクトを出していきたいか、そのためにはどのような研究活動を進めたらよいか、常に自問自答しながらナビゲートしていくチャレンジがあります。

【今の所属機関での研究内容、やりがい】

最近では、医学や工学などの他分野の方とも積極的にタッグを組み合わせながら、恐怖や不安を克服するメカニズム解明や手法開発に取り組んでいます。その他にも、独自の視点で研究アプローチの開拓に取り組んでおり、時には遠回りすることもあります。やりがいを感じています。

【今後の研究】

最近の研究のアイデアや計画がさらに膨らみつつあるので、ラボのメンバーを増やして、次々と形に繋げていきたいと考えています。

よく「企業での研究生活はどうですか？」と聞かれることがありますが、正直、企業に勤めているということにはあまり意識せずに日々研究に取り組んでいます。

また、卓越研究員になってから、アカデミアの方々と共同研究する機会がこれまで以上に増えました。卓越研究員制度への応募を考えられている方も、「企業」か「アカデミア」か、というカテゴリーに必ずしもかわらず、ぜひ、ご自身の価値観やスタイル、そしてキャリアステージに合った環境を見つけて活躍されることを応援しています。



イメージやメディアについて考えることから 広がる世界

九州大学
芸術工学研究院 講師
増田 展大 さん (令和元(2019)年度卓越研究員)

人文学のうちでも美学・芸術学といったアプローチから、イメージやメディアと呼ばれる対象について研究しています。写真を中心に歴史的な資料を掘り起こしては、現在の思想や理論と掛け合わせるような論考を発表してきました。なかでも自然科学の歴史上で映像メディアがどのように利用されてきたのかについて関心をもち、最近ではバイオ・メディアアートと呼ばれる表現形態にも注目しています。

卓越研究員事業への申請を決めたのは、こうした研究テーマに関連する募集が出ていることを知ってからのことです。研究だけでなく、馴染み深い生活から新しい環境に飛び出そうといった思いもあったのかもしれませんが。

ただ、いわゆるコロナ禍が本格化する時期と異動のタイミングとが重なり、身の回りでは起きていることが自身の変化なのか環境の変化なのか、はっきりと掴めずいました。それでも現在の所属機関で温かく迎えて頂き、関連する分野の研究者やアーティストの皆さんと一緒にいくつかのプロジェクトを開始することもできました。映像文化やアート・デザインについての考察から、今後も分野間を架橋するような議論が展開できればと考えています。

卓越研究員事業に参加することによって、優秀な若手研究者を採用できた研究機関の声をご紹介します。

卓越研究員(候補者)を採用して良かった点、卓越研究員へ期待すること。

幅広い分野から多数の優秀な若手研究者の応募があり、ロールモデルとなる若手研究者が採用できました。

卓越研究員には、研究グループを率いる研究者になるとともに、新たな研究領域の開拓にも期待します。

企業等

弊社が強化しようとしていた分野でテーマ提案をされた卓越研究員候補者がいたので、卓越研究員事業を活用しました。従来なら技術導入などで多大なコストが必要なところを、専門家による審査プロセスを経た高度人財の採用により、速やかにプロジェクトを立ち上げることができたことは大きな利点でした。

アカデミアでの研究経験を活かしてサイエンスに基づく開発を推進しテクノロジーとエンジニアリングを組み合わせ、社会に役立つモノ・コトを創生することを期待しています。当初の提案テーマだけに拘らず、柔軟かつ主体的に研究開発を推進し、社会貢献することを期待しています。

大学等

大学が独自に行う通常の教員公募と比べて、より広い範囲から応募があり、強化したい分野の優秀な研究者を採用することができました。また、卓越研究員を含む若手研究者間の連携に結び付き、共同研究や外部資金への共同応募が可能となりました。

他の教職員と連携・切磋琢磨し、研究の活性化につながることを期待しています。さらに、本事業の支援で充実した研究活動を遂行した後、将来的には教育、研究、運営、社会貢献等において、幅広く活躍することを期待しています。

卓越研究員事業を活用することで得たメリット、補助金の活用例

若手研究者の応募が増加しました。

また、補助金の研究費により、卓越研究員の独立した研究室の整備や共同研究環境を充実させることができ、補助金の研究環境整備費により、RAや事務スタッフの雇用など研究支援体制を整備できました。

企業等

補助金は研究環境の整備に活用しております。
新しい実験系を導入する際にかかる費用に対して補助を得られることは大きな利点です。



大学等

新たな設備・機器の購入に補助金を活用することにより、共同研究環境の整備を充実させることができました。また、研究補助者の雇用に充てることで、研究チームをさらに増強することにもつながりました。

卓越研究員事業への参加を検討している研究機関へのメッセージ

若手研究者の採用活動に役立ちます。

卓越研究員候補者は、早期にPIとして独立しようとする能力・業績を有した優秀な若手研究者が多いことや、補助金による支援を受けられることから、優れた若手研究者の育成を目指す多くの研究機関の参加（ポスト提示）を推奨します。

企業等

（特に、弊社のような民間企業に向けて）研究成果を事業にして社会実装を志向する若手研究者も増えてきているように感じます。卓越研究員が主体的に研究活動を行える環境を提供することにより、新たな事業の芽が出ることを期待されます。

大学等

卓越研究員事業は、通常の教員公募と比べて、講義への従事等の制約が少なく、また研究費の支援もあるため、より広範囲から多数の応募が期待できます。また、文部科学省と大学での二段階の審査を経て採用となるため、まさに卓越した人材を採用することができます。

これまで参加した多様な研究機関（148機関）

大 学

北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、弘前大学、岩手大学、東北大学、秋田大学、山形大学、茨城大学、筑波大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、千葉大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京農工大学、東京芸術大学、東京工業大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、一橋大学、横浜国立大学、新潟大学、長岡技術科学大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、滋賀医科大学、京都大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、神戸大学、鳥取大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、香川大学、高知大学、九州大学、九州工業大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、政策研究大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学、首都大学東京、大阪市立大学、大阪府立大学、福岡女子大学、公立鳥取環境大学、順天堂大学、聖路加国際大学、早稲田大学、東海大学、学習院大学

大学共同利用機関

人間文化研究機構、高エネルギー加速器研究機構

国立研究開発法人

物質・材料研究機構、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構、日本原子力研究開発機構、産業技術総合研究所、国際農林水産業研究センター

企 業

アイ' エムセップ(株)、旭化成(株)、味の素(株)、アステラス製薬(株)、飯田グループホールディングス(株)、出光興産(株)、(株)Epsilon Molecular Engineering、NUProtein (株)、大塚製薬(株)、オリシロジェノミクス(株)、(株)オンチップ・バイオテクノロジーズ、Karydo TherapeutiX (株)、キヤノン(株)、キリン(株)、Ghoonuts (株)、Craif (株)、コニカミノルタ(株)、(株)サイバーエージェント、(株)ジーンクエスト、(株)Jij、JX エネルギー(株)、JFEスチール(株)、塩野義製薬(株)、シミックファーマサイエンス(株)、シンクサイト(株)、シンクランド(株)、住友化学(株)、住友電気工業(株)、(株)セツロテック、(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所、第一三共(株)、(株)ダン計画研究所、(株)digzyme、トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、(株)夏目総合研究所、Navier (株)、(株)ニコン、(株)日産アーク、日産自動車(株)、日本製粉(株)、日本電気(株)、日本電子(株)、(株)Nextremer、パナソニック(株)、(株)日立製作所、(株)ヒューマノーム研究所、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)、(株)HIROTSU バイオサイエンス、(株)富士通研究所、富士フイルム(株)、(株)プランテックス、(株)VEQTA、(株)ヘルスケアシステムズ、Mantra (株)、三菱電機(株)、(株)ユーグレナ、(株)ライトニックス、リージョナルフィッシュ(株)、リバーフィールド(株)、LocationMind (株)

公設試験研究機関

埼玉県環境科学国際センター

公益財団法人

公益財団法人がん研究会、公益財団法人東京都医学総合研究所、公益財団法人豊田都市交通研究所、公益財団法人明治安田厚生事業団

そ の 他

長野県工科短期大学校、防衛医科大学校

※機関名は事業へ参加時点の名称

※上記一覧は平成28年度～令和2年度にポストを提示した機関

◆卓越研究員事業について詳しくは <https://www.jsps.go.jp/j-le/index.html>

【お問い合わせ先】

<事業全般に関すること>

文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室

E-mail : takuetu@mext.go.jp TEL : 03-5253-4111 (内線4021)

<申請・補助金に関すること>

独立行政法人日本学術振興会 卓越研究員事業担当

E-Mail : takuken@jsps.go.jp TEL : 03-3263-3769

